

令和 3 年 6 月 12 日現在

機関番号：32406

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12538

研究課題名（和文）宗教改革思想の伝播に関する研究 - オーラルなコミュニケーションを中心にして

研究課題名（英文）The Diffusion of the Reformation in Lower Rhine : Focusing on Oral Communication

研究代表者

永本 哲也 (Nagamoto, Tetsuya)

獨協大学・外国語学部・非常勤講師

研究者番号：60623858

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、オーラルなコミュニケーションに注目しながら、宗教改革思想の伝播のメカニズムを実証的・体系的に明らかにすることを目的とする。そのために、1534～35年に下ライン地方で再洗礼派によって行われた宣教が、いかなるメディアを通じて行われ、どのような効果を上げたかを調査した。その結果、下ライン地方再洗礼派は、主に支持者の私邸で開かれていた秘密集会で、口頭でのコミュニケーションを通じて宣教を行っていたことが明らかになった。その際、家族や友人、特に夫婦の間で宣教が行われ、大きな効果を上げていたことが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

識字率が低かった16世紀ドイツにおいて、宗教改革思想が民衆にまで伝わる際に、オーラルなコミュニケーションの影響が大きかったことは既に指摘されてきた。しかし、史料的困難故に実証研究が進んでおらず、結果として宣教に関する研究は、印刷物に関わる研究に大きく偏ってきた。本研究は、再洗礼派の審問記録を用いて、オーラルなコミュニケーションが宣教で実際に用いられ、大きな効果を上げていたことを実証した点で、重要な学術的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：This research aimed at empirically and systematically clarifying the mechanism of the diffusion of the Reformation by focusing on oral communication. For this purpose, I investigated the means and effects of missionary work by the Anabaptist in the Lower Rhine region in 1534-35. It has revealed that the Lower Rhine Anabaptist carried out their missionary work through oral communication, mainly in secret meetings held at the private homes of their supporters. Family and friends, especially married couples, played an important role in growing the congregation.

研究分野：西洋史

キーワード：宗教改革 再洗礼派 コミュニケーション メディア 思想 宣教 ドイツ キリスト教

1. 研究開始当初の背景

宗教改革は、わずか 10～20 年の間にヨーロッパ中に急速に広がっていった宗教運動であった。宗教改革思想の急速な伝播を可能にした手段として考えられていたのは、長らく活版印刷術の確立というメディア革命、印刷物の爆発的増大であった。

しかし、16 世紀でも文字を読める者は少数に限られていた。そのため 1980 年代以降、民衆への伝播の際に、印刷された著作以外のメディアが果たした役割にも注目が集まった。その中で、多くの研究者が最も大きな影響を及ぼしたと考えるのが、説教や日常会話などのオーラルなコミュニケーションである。しかし、これらは文字に記録されることが少ないため実証研究はその後十分進んでおらず、結果宗教改革思想の伝播に関する研究は現在でも著しく印刷物に偏っている。そのため、史料的困難を乗り越え、オーラルなコミュニケーションを含む思想の伝播を明らかにすることは、宗教改革史研究の極めて重要な課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドイツ北西部下ライン地方において再洗礼派が行った宣教の方法と効果を分析することで、宗教改革思想の伝播のメカニズムを実証的・体系的に明らかにすることである。その際、これまで十分実証研究がされてこなかった、オーラルなコミュニケーションを通じた宣教に特に注目し、検証を加える。

3. 研究の方法

(1) 再洗礼派の審問記録や世俗権力の手紙の利用

オーラルなコミュニケーションは、文字に記録されることが少ないために、宗教改革思想の伝播を実証的に分析することには史料的困難が伴う。この困難を乗り越えることを可能にする史料が、再洗礼派の審問記録である。再洗礼派は異端・反乱者として各地で当局の取り締まりの対象になってため、当局は彼らを逮捕し、宣教した場所、宣教した者の名前や宣教方法を聞き出そうとした。さらに、諸侯や市当局などは、審問から得られた情報を、手紙や使者を通じて伝えあっていた。これらの記述から、具体的な宣教方法やその効果を把握できる。

(2) 個人レベルでの宣教方法の把握と人名リストへの集約

個人レベルで宣教の方法と効果を明らかにする必要がある。そのために本研究では、まず刊行史料を網羅的に入手した。2018 年 9 月にデュースブルクのノルトライン・ヴェストファーレン州立文書館ラインラント部門で、ユーリヒ公領各地の再洗礼派取り締まりに関する代官の書簡や逮捕・処刑された再洗礼派のリストを調査した。2020 年 2～3 月には、ヴェーゼル市立文書館で市参事会議事録、ノルトライン・ヴェストファーレン州立文書館で、エッセンとグラードバハ再洗礼派に関する史料、アーヘン市立文書館でアーヘン宗教改革関連文書を閲覧した。

これらの史料を用いて、再洗礼派が宗教改革思想を受け入れた経緯や理由を個人レベルで把握し、人名リストを作成する。下ライン地方各地の再洗礼派の宣教に関する情報を、人名リストに集約することで、宣教の実態を体系的に明らかにすることができる。

(3) 「ローカル」「地域的」「超地域的」な宣教

オーラルなコミュニケーションは、ローカルな場だけでなく、広域での宣教でも使われていた。そのため、個々人が行った宣教の効果を体系的に把握するためには、全ての空間的範囲を扱う必要がある。本研究では、Robert W. Scribner の提唱した枠組みに則り、伝播の範囲を「ローカル」「地域的」「超地域的」の 3 つのレベルに分けて分析する。

再洗礼派は下ライン地方の諸都市やその周辺で宣教を行った。そのためまず、ケルン、ヴェーゼル、アーヘン、ユーリヒ公領の諸共同体など「ローカル」なレベルで再洗礼派の宣教方法を把握する必要がある。しかし、下ライン地方各地の再洗礼派は、個々の共同体を越えたつながりを持ち、「地域的」な広がりの中で宣教を行ってきた。さらに彼らは、ヴェストファーレン地方や低地地方にまで広がる「超地域的」な再洗礼派ネットワークの一部でもあった。そのため、この三つの地理的レベルで、再洗礼派の宣教方法と効果を分析する。

分析の際には、以下の三つの項目に注目する。

- a) 宣教者：どのような者が宣教し、洗礼を通じて信徒を増やしていたか。
- b) 方法：宣教で用いられた様々なコミュニケーション手段がどの程度の信徒を改宗させたか
- c) 人間関係：宣教で用いられた人間関係と宣教における効果

以上のように本研究は、多数の個人を網羅的に把握し、伝播の範囲を三つのレベルに分け個別に分析し、その結果を総合して宣教全体の効果を評価することによって、実証的、体系的に宗教改革思想伝播のメカニズムを解明する。

4. 研究成果

(1) 宗教改革研究及びコミュニケーション研究の動向紹介

21世紀に入ってから宗教改革研究は、劇的に変化した。そのため、本研究を進めるにあたって、その前提となる宗教改革研究全体の研究動向を把握しようと試みた。その結果、近年の研究動向を、宗教改革運動の多様性を強調する「複数形の宗教改革」、宗教改革を中世後期から近世・近現代にまで続く長期の変化の過程だと考える「長期の宗教改革」、ヨーロッパを越えたグローバルな観点から捉え直そうという「グローバルな宗教改革」の三点に整理した。その成果は、歴史学研究会が刊行する学会誌『歴史学研究』(2018年10月)で公表した。

近年宗教改革期のコミュニケーションやメディアに関する研究の進展が目覚ましい。そのため、宗教改革の最初期に出版されたプロパガンダの木版画ピラである「天国と地獄の馬車」(アンドレアス・ボーデンシュタイン・フォン・カールシュタット:文、ルーカス・クラナハ(父):挿絵)を中心に、新しい研究の成果や動向を踏まえて、宗教改革期の印刷物の分析方法を概観する論文を執筆した。この中では、宗教改革期には、口頭のコミュニケーション、行動としてのコミュニケーション、視覚的なコミュニケーション、文字によるコミュニケーションという4つのコミュニケーション手段が印刷物と相互に結びつくことで、宗教改革のメッセージを人々に伝えていたことを明らかにした。本論文は、獨協大学の紀要『ドイツ学研究』(2021年3月)に掲載された。

(2) 宗教改革思想の宣教方法と効果

本研究の2年目である2019年度には、下ライン地方各地で逮捕された再洗礼派の審問記録などにに基づき、宣教の分析を行い、研究報告を行った。2019年7月6日の宗教改革史研究会では、ユーリヒ公領、ケルン、マーストリヒト、2019年12月21日のハンザ史研究会では、ヴェーゼルス市での再洗礼派の宣教に関する分析結果を公表した。

これまでの分析で明らかになったことは、以下の通りである。

(a) 宣教者: 当該諸都市で、宣教を行い、支持者に洗礼を授けていたのは、主に地域の福音派説教師、使者、俗人指導者であった。ユーリヒ公領では、先ずヨハン・クロプリスやディオニシウス・フィンネのような説教師、その後ヤコブ・フォン・オッセンブルクやペーター・フォン・ドレメンのようなミュンスターから派遣された俗人の使者によって宣教が行われていた。ケルンでは、ゲルハルト・ヴェスターブルクという富裕な商人、リヒャルト・ファン・リヒラートというガラス工が主に宣教・洗礼を行っていた。マーストリヒトでは、先ずハインリヒ・ロルという説教師、その後ヤン・スメイトヘンという鍛冶屋が宣教・洗礼の中心であった。ヴェーゼルスでは、先ずハインリヒ・クニッピンクという羊毛工やクリスチアヌス、フランス・ファン・イーペレンという修道士が市内で福音主義を広め、ハインリヒ・ロルという説教師が洗礼を始め、その後オットー・フィンクという市参事会員が宣教・洗礼を引き受けていた。ここから、福音主義を広める契機を作った者には説教師・修道士といった聖職者が多いが、その後市内の俗人が中心的役割を担うようになったことが分かる。これら説教師、使者、俗人指導者たちは、下ライン地方、ヴェストファーレン地方、低地地方という超地域的な領域、あるいは下ライン地方という「地域的」領域を移動しながら宣教をすることも多く、再洗礼主義を広域で広める際に重要な役割を果たしていた。

(b) 方法: 宣教で主に用いられていたのは、口頭によるコミュニケーションであった。どの都市でも、宣教場所として最も頻繁に使われたのは、福音主義支持者の家であった。私邸で開かれた秘密集会で、説教師、使者、指導者が、他の者たちに説教や洗礼を行うことで、信徒を増やしていた。集会場所は、やはり指導者や中心的な再洗礼派の家が多かった。他には、宿屋で宣教が行われた例も確認できる。自分で、あるいは他の者から薦められて福音主義的な本を読み、福音主義・再洗礼主義に触れた者もいた。ただし、洗礼を受けるのは対面であり、秘密集会では説教や個人に対する働きかけも行われているので、本と口頭による宣教は不可分のものであり、相互補完的な役割を果たしていたと考えられる。

(c) 人間関係: 超地域的、地域的な宣教を考える際に、重要な役割を果たしたのは、各地を移動しながら宣教活動を行う説教師、使者、俗人指導者たちだった。しかし、「ローカル」なレベルでは、日常的な場所で行われた家族、親族、近所の人々、仕事上のつながりがある人々間での宣教が最も大きな役割を果たしたと思われる。洗礼を行っていたのは基本的に指導者たちであったが、宗教改革思想に触れる、あるいは集会に参加する契機を作る、実際に洗礼を受けることを決意させる際に、既存の人間関係が利用されていたためである。特に効果が大きかったのは、家族・親族関係、特に夫婦関係である。ヴェーゼルスでは、史料で確認できるだけで再洗礼派の容疑をかけられたものの過半数は、家族・親族に再洗礼派がいた。おそらく他にも家族・親族に再洗礼派を持つ者はいたと思われるので、大半には身内に再洗礼派がいた可能性が高い。特に夫婦揃って再洗礼派の容疑をかけられた場合が多い。他の場所でも、同様の例は頻繁に見られるため、再洗礼派は、既存の人間関係を通じて、人々に働きかけ、再洗礼主義を広め、支持者を増やしていたことが分かる。

(4) 今後の課題

本研究が達成することができず、今後成果を出す必要がある課題は以下の通りである。

研究期間の3年目の2020年度は、新型コロナウイルス感染が拡大し、大学で全面的にオンラ

イン授業が導入された年に当たる。これにより授業とその準備に必要となる時間と労力が例年と比べ倍増したために、1年を通じてほとんど研究時間が取れず、作業を進めることがほぼできなかった。幸い新型コロナウイルス感染による海外渡航が困難になる直前の2020年2~3月にかけてドイツで史料調査を行うことができたため、本研究に必要な史料調査は完了している。そのため、アーヘン、エッセン、グラーズバハ、デュースブルクなど分析が終わっていない都市の作業を進め、下ライン地方再洗礼派の網羅的な人名リストを完成させた後、下ライン地方という「地域的」レベル、下ライン地方とヴェストファーレンや低地地方という「超地域」的レベルでの再洗礼派のつながりと宣教について分析し、研究報告や論文を通じて分析結果を公にすることが必要となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 永本哲也	4. 巻 79
2. 論文標題 宗教改革時代の印刷物を分析するための視角 カールシュタット「天国と地獄の馬車」（1519年）を中心にして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ドイツ学研究	6. 最初と最後の頁 89-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 永本哲也	4. 巻 1000
2. 論文標題 Twitterを通じた歴史学の研究成果の発信とコミュニケーション	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永本哲也	4. 巻 975
2. 論文標題 拡散と収束 - 複数形、長期、グローバルな観点による宗教改革像の黎明	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永本哲也	4. 巻 706
2. 論文標題 惨劇から和解の場へ - ミュンスター聖ランベルティ教会の三つの檻の過去と今 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究月報	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永本哲也	4. 巻 974
2. 論文標題 史料・文献紹介 踊共二編著『記憶と忘却のドイツ宗教改革 - 語りなおす歴史1517-2017 - 』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 永本哲也
2. 発表標題 1534-35年下ライン地方における再洗礼派の宣教 オーラルなコミュニケーションを中心にして
3. 学会等名 宗教改革史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永本哲也
2. 発表標題 ミュンスター宗教改革における預言と奇跡 奇跡のしるしを中心に
3. 学会等名 武蔵大学科研ワークショップ 近世ヨーロッパの女性と社会 + 近世ドイツ語圏の預言・奇跡・呪術
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永本哲也
2. 発表標題 1534-35年ヴェーゼル再洗礼派—宣教、コミュニケーション、ネットワーク
3. 学会等名 ハンザ史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永本哲也、大谷哲、小坂俊介
2. 発表標題 せんだい歴史学カフェ in KYOTOオープンサイエンスミートアップ！ 歴史学の面白さ、伝えます！
3. 学会等名 KYOTOオープンサイエンス勉強会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永本哲也
2. 発表標題 宗教改革時代のコミュニケーション 多様なメディアの相互作用を通じて
3. 学会等名 <獨協大学国際共同研究助成によるワークショップ>「ドイツ・ルネサンス芸術の研究 ドイツ・ルネサンス美術における革新性（イノベーション）とは何か III」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 歴史学研究会、加藤 陽子、永本哲也他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 348
3. 書名 天皇はいかに受け継がれたか	

1. 著者名 永本哲也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 447
3. 書名 ミュンスター宗教改革 1525-34年反教権主義的騒擾、宗教改革・再洗礼派運動の全体像	

〔産業財産権〕

〔その他〕

宗教改革の新しい研究を知るための日本語文献ガイド
<https://note.com/saisenreiha/n/n39d2d634322d>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------